

【看護学科(旧カリキュラム)】

教育内容	科目	担当教員名	履修学年および時間数			実務経験担当		実践的な教育内容
			1年	2年	3年	時間数	単位数	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	田上晶子	30		30	1	【看護学概論Ⅰ-1】 総合病院における小児病棟、外科病棟勤務など幅広い臨床経験を活かし、基礎看護学を担当。1年生へ看護学への導入、さらに看護を考えるうえで欠かせない人間や健康、環境について理解を深め、倫理観を養うための授業を展開している。
		基礎看護学技術論Ⅲ	椎原由美子	30		30	1	【看護学概論Ⅰ-2】 総合病院における小児病棟、外科病棟勤務など幅広い臨床経験を活かし、基礎看護学を担当。1年生へ看護学概論Ⅰ-1で学習した人間や健康、環境と看護を結びつけるための演習を行っている。
			山下久美子					大学病院における急性期・慢性期病棟での臨床経験を活かし、対象の身体的情報を客観的に把握するために必要な身体計測とバイタルサイン測定に関する技術について授業を行う。
		基礎看護学技術論Ⅴ	山下久美子	30		30	1	総合病院における外科・内科などの病棟勤務を通じて培った経験を活かし、基礎看護学の中でバイタルサインに関する技術について授業を行う。
			武田ひとみ					総合病院において様々な病棟勤務を通じて培った経験を活かし、基礎看護学の中で院内感染予防の方法や無菌操作、包帯法、創傷管理について必要な知識・技術に関する授業を行う。
								総合病院の小児科勤務のなかでの小児や家族への看護経験を活かし、院内感染予防・無菌操作の理解、一時的導尿における無菌操作の実践について必要な知識・技術に関する授業を行う。
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学総論	加藤あゆみ	30		30	1	適切な看護アプローチを行うためには対象理解が欠かせない。附属病院での勤務（心臓血管外科・消化器・腎臓・血液内科・皮膚科・形成外科）経験を活かし、さまざまな役割を担う成人期にある人の健康に焦点をあて、成人各期の特性はもちろんだ、この先、老年期に入る人として変化し続ける存在として捉え、個人のみならず、家族や社会におけるさまざまな集団を含め、療養生活を支える看護とは何かを考える授業を行う。
	母性看護学	母性看護学総論	奥田 裕紀子	30		30	1	総合病院の産婦人科・乳腺外科病棟に勤務し、女性が生涯において関わる様々な症例に対応してきた経験を活かし、女性のライフステージ各期における健康問題とその看護の視点を拡大できるよう授業を行う。
		母性看護学方法論Ⅱ	毛野和代		60	60	2	【母性看護学方法論Ⅱ-1】 大学病院の産婦人科に従事し、周産期における妊産婦・新生児の身体的・心理的・社会的側面をアセスメントし、看護の視点を伝え、臨地実習へつなげられるように授業を行う。また、沐浴の演習も行う。
			奥田 裕紀子					【母性看護学方法論Ⅱ-2】 大学病院の産婦人科に従事し、婦人科疾患で女性生殖器を罹患する対象の解剖生理学・治療・看護をグループワークを踏まえて学習し授業を行う。
								【母性看護学方法論Ⅱ-1】 総合病院の産婦人科病棟に勤務し、助産師として多くの分娩や妊・産・褥婦・新生児に携わってきた経験を活かし、それぞれの経過を身体的・心理的・社会的な側面から援助方法を考えられるよう授業を行う。
統合分野	在宅看護論	在宅看護方法論Ⅱ	杉本美恵		30	30	1	訪問看護師として在宅看護に従事した経験を活かし、療養者の生活の場における在宅看護の実践技術の基本について演習を通して学ぶ授業を行う。生活の場で医療を提供する特性を理解し、対象のニーズの把握と援助の根拠及び必要性を思考するための知識・技術に関する授業を行う。
			森文美代					大学病院で従事した臨床経験を活かし、退院後の在宅療養における療養者本人・家族介護者にとっての必要性・意義・負担を考慮した食・栄養摂取支援や援助方法について授業を行う。
合計				150	90		240	8

近畿大学附属看護専門学校 2023 SYLLABUS

看護学科（旧カリキュラム）

2021年度

看護学概論Ⅰ-1

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	田上 晶子								

科目の目標

看護の原点や看護の理念、歴史的背景などを学習し、「看護とはなにか」を多方面から考えられる知識を身につける。また倫理や人権擁護について学習し、専門職に求められる姿勢や態度を学ぶ。
職業としての看護の歴史や看護教育制度の変遷を学び、看護の専門職に求められる社会的使命について考える。

関連教科

看護学概論Ⅰ-2（ナイチンゲール・プロジェクト学習）

時間外学習（予習・復習・課題）

講義中にお知らせします。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
課題（講義中に提示します）	

テキスト

系統別看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①
医学書院

看護覚え書

日本看護協会出版会 著）F・ナイチンゲール

看護の基本となるもの

日本看護協会出版会 著）V・ヘンダーソン

看護者の基本的責務

日本看護協会出版会

参考文献

プロジェクト学習の基本と手法

教育出版 著）鈴木敏恵

ケアの本質

ゆるみ出版 著）ミルトン・メイヤロフ

看護理論看護理論20の理解と実践への応用

南江堂

参考URL

特記事項

指示された提出物の提出期限は厳守する。（評価点に影響）
不明な点は積極的に質問する。

①実務経験のある教員による科目（本務先）
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
臨床；小児看護、整形外科看護
学校；小児看護学、基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1 コマ目	看護の魅力を知り、看護師を目指すにあたり、必要なものは何か考えることができる。 1) 「看護エピソード」から、看護の魅力、看護とは何かを考えることができる。 2) 「協同学習」を通して、グループ活動の意義やメンバーとしての責任について知ることができる。
2 コマ目	看護理論家や看護職能団体による「看護の定義」から、看護の本質的価値について考えることができる。 1) 看護の変遷を知り、近代看護について理解する。 2) ナイチンゲールの「看護覚え書」から「看護の価値」について考えることができる。 3) ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」から「看護の価値」について考えることができる。
3 コマ目	看護の役割と機能について理解する。 1) 看護理論家がとらえていた「ケア」について学び、「看護ケア」とは何かを考えることができる。 2) 看護職に関する法律から「看護の役割」について理解する。 3) 看護の質の保障に欠かせない要件から、看護師として必要な能力について知ることができる。
4 コマ目	看護の対象を理解する。 1) 人間の「こころ」と「からだ」について考えることができる。 2) 人間の「暮らし」について考えることができる。
5 コマ目	国民の健康と生活の全体像について理解できる。 1) 「健康のとらえ方」や「健康の定義」について理解する。 2) 国民の健康と生活の全体像を知ることができる。 3) 家族の健康について考えることができる。（ナイチンゲール・プロジェクト学習）
6 コマ目	看護職者の倫理と患者の権利擁護について基本的事項を理解する。 1) なぜ倫理について学ぶのか理解する。 2) 「倫理」とは何かを理解する。 3) 医療をめぐる倫理の歴史的経緯について理解する。 4) 看護実践における倫理問題への取り組みについて知る。
7 コマ目	事例を通して看護師として倫理実践のあり方について学ぶ。 1) グループ討議を通して、倫理に基づく看護実践の在り方を考えることができる。 2) 「看護者の倫理綱領」の15条を守るための学生としての姿勢・行動について考えることができる。

2021年度

看護学概論Ⅰ-2

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	田上 晶子								

科目の目標

職業としての看護の歴史や看護教育制度の変遷を学び、看護の専門職に求められる社会的使命について考える。
《ナイチンゲール・プロジェクト学習》
制作や発表を通して、看護の視点やコミュニケーション力や表現力、自己評価力や相互評価力などを身につける。

関連教科

看護学概論Ⅰ-1

時間外学習（予習・復習・課題）

ナイチンゲール・プロジェクト学習

オフィスアワー

ナイチンゲール・プロジェクト学習では、個別指導を行います。
アポイントの取り方は講義の中で説明します。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プロジェクト学習	
課題（講義中に提示します）	

テキスト

系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①
医学書院

参考文献

ポートフォリオとプロジェクト学習
医学書院 著）鈴木敏恵

参考URL

特記事項

指示された提出物の提出期限は厳守する。
不明な点は積極的に質問する。

①実務経験のある教員による科目（本務先）
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
臨床経験；小児看護、整形外科看護
教員経験；小児看護学、基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1 コマ目	職業としての看護の歴史やキャリア開発について知り、看護が果たすべき役割を理解する。 1) わが国の看護職が専門職として発展してきた歴史的背景を知り、職業としての看護について考えることができる。 2) 看護をめぐる制度と政策についてについて知る。 3) 看護職者の就業状況と継続教育の現状を知る。
2 コマ目	看護における連携と協働について理解することができる。 1) チーム医療とは何かが説明できる。 2) チーム医療における看護の役割を考えることができる。
3 コマ目	＜ナイチンゲール・プロジェクト学習＞ プレゼンテーション用掲示物の制作と発表原稿作成 1) 効果的なプレゼンテーションにつながる掲示物を制作できる。 2) プレゼンテーションが成功するための工夫や練習ができる。 3) 他者の準備状況を知ること、自己評価ができる。
4・5 コマ目	＜ナイチンゲール・プロジェクト学習＞ 発表会 1) 聞き手に伝えたい内容が伝わるプレゼンテーションにすることができる。 2) 他者の発表に対して、よかった点・こうすればもっとよくなると考えた点を伝えることができる。 3) 他者の掲示物やプレゼン内容から表現方法や手法など見習うべき点を学ぶことができる。
6 コマ目	＜ナイチンゲール・プロジェクト学習＞ 再構築／凝縮ポートフォリオの作成 1) 発表会での学びを反映し、「大切な人」へのねがい（ビジョン）が叶う内容に再構築できる。 2) 「ビジョン・ゴール」「根拠」「具体的な提案」があり、見た人の役に立つ内容に作成することができる。
7 コマ目	＜ナイチンゲール・プロジェクト学習＞ 凝縮ポートフォリオについて意見交換することにより、学生間で知の共有を図る。 1) 自分以外の考え方や発想を得て、自己の成長につなげることができる。 2) 「凝縮ポートフォリオ」を学生間で互いに評価することができる。 3) 自分の成果物をさらに改善することができる。

2021年度

基礎看護学技術論Ⅲ

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	椎原 由美子、山下 久美子								

科目の目標

1. 対象の身体的情報を客観的に把握する技術として、身体計測とバイタルサイン測定の意義と方法を学ぶ。
2. 学内実習を通し、バイタルサイン測定の基本的方法を習得する。

関連教科

解剖生理学
基礎看護学方法論Ⅰ
基礎看護学技術論Ⅶ

時間外学習（予習・復習・課題）

1. バイタルサイン（意識・呼吸・循環・体温）に関連する解剖生理学の知識を想起して臨む。
2. ヘルスアセスメントとしてのスクリーニングの技法について想起して臨む。
3. 8コマ目の学内実習ガイダンスまでに、バイタルサインに関連する自己学習を進める。
（課題：①設定患者の発達段階の特徴 ②体温調整のメカニズム ③バイタルサインの生理的変動因子 ④バイタルサイン測定の意義、観察内容、測定方法と留意事項）
4. 技術練習についてはガイダンス時に説明します。

オフィスアワー

- ・月～金 8:30～17:30
- ・学内実習期間中の授業時間外に技術指導が可能な時間は、学内実習ガイダンス時に説明します。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
学内実習：記録類（基礎看護技術実施要項）、提出物（課題）	
学内実習：技術の習得状況、練習状況	

テキスト

系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ
医学書院

系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ
医学書院

フィジカルアセスメントがみえる
メディックメディカ

参考文献

基礎看護技術 第7版
医学書院 著）阿曾洋子・井上智子・氏家幸子

参考URL

特記事項

バイタルサインに関連する解剖生理学の知識を想起して臨む。
学内実習では時間を有効に活用し、積極的に技術練習を行う。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

椎原由美子

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；救急看護、呼吸器内科看護

教員経験；在宅看護論、基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

山下 久美子

近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；内科看護（循環器・消化器）脳神経外科看護、小児看護、母性看護

教員経験；基礎看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	ヘルスアセスメントとして、バイタルサインの観察を行う意義について理解できる。
2コマ目	バイタルサインの観察：体温 1. 体温調節機能に関する復習ができる。 2. 体温の正常と異常が理解できる。 3. 体温の観察と測定方法について理解できる。
3コマ目	バイタルサインの観察：呼吸 1. 換気のメカニズムと呼吸の調整について復習できる。 2. 呼吸の正常と異常について理解できる。 3. 呼吸の観察と測定方法について理解できる。
4～5コマ目	バイタルサインの観察：循環（脈拍・心拍・血圧） 1. 循環動態の基礎的知識の復習ができる。 2. 脈拍・心拍・血圧の正常と異常、環境因子について理解できる。 3. 脈拍・心拍・血圧の観察と測定方法について理解できる。
6コマ目	バイタルサインの観察：意識レベル 1. 意識が正常に保たれるしくみについて理解できる。 2. 意識レベルの正常と異常、観察と測定方法について理解できる。
7コマ目	ヘルスアセスメントとして、身体計測を行う意義について理解できる。 身体計測 1. 身体各部の計測方法と留意点について理解できる。
8コマ目	学内実習：ガイダンス 1. 学内実習において何を学ぶか明確にする。 2. 模擬事例について具体的にイメージできる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
9～12コマ目	学内実習：実習関係 1. デモンストレーション見学後、グループ別にバイタルサイン測定の練習を行う。 2. バイタルサインの測定結果を正しく記録する。
13～14コマ目	学内実習 グループ別に指導教員の指導を受け、「臥床患者のバイタルサイン測定」を実施する。
15コマ目	筆記試験

2021年度

基礎看護学技術論Ⅴ

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	山下 久美子、武田 ひとみ								

科目の目標

感染予防の意義と原則を理解し、院内感染の原因やその制御のための基礎知識と感染予防の方法を学ぶ
学内演習を通し、無菌操作を習得する。

関連教科

解剖生理学

微生物学

基礎看護学技術論Ⅳ

時間外学習（予習・復習・課題）

「導尿」DVDを視聴したうえで8コマ目を受講してください。

9～13コマ目 学内演習期間は、平日の16:30～18:00、土曜日の9:00～12:00技術練習を設けています。

オフィスアワー

特になし

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
出席状況（自己練習を含む）、態度、実技、提出物	

テキスト

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護
医学書院 著）有田清子他

看護が見える① 基礎看護技術

メディック メディカ 著）岡庭 豊

参考文献

写真でわかる基礎看護技術

インターメディカ 著）吉田みつ子他

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

山下久美子
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：内科看護（循環器・消化器）、脳神経外科看護、小児看護、母性看護
教員経験：基礎看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

武田 ひとみ
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：小児看護
教員経験：小児看護学、基礎看護学

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	感染予防① 1. 感染のメカニズムおよび感染予防の意義と目的を理解する。 2. 標準予防策（スタンダードプリコーション）の基礎知識について理解する。
2コマ目	感染予防② 1. 標準予防策（スタンダードプリコーション）の実際の方法について理解する。 2. 感染経路別予防策について理解する。
3コマ目	感染予防③ 1. 洗浄・消毒・滅菌について理解する。
4コマ目	感染予防④ 1. 無菌操作の基礎知識と方法について理解する。 2. 感染性廃棄物の取り扱いについて理解する。
5コマ目	創傷管理 1. 創傷の治癒過程と治癒形態について理解する。
6・7コマ目	感染予防 演習 演習内容：衛生的手洗い、滅菌手袋の着脱方法、ガウンテクニック、無菌操作
8コマ目	ガイダンス 学内演習「無菌操作・導尿」 1. 学内実習において何を学ぶかを明確にする。 2. 模擬事例について具体的にイメージできる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
9～11コマ目	実習関係 デモンストレーション見学後、グループ別に無菌操作による導尿の練習を行う。
12コマ目	実習準備 環境整備、必要物品の準備
13～14コマ目	学内実習 装着モデルを使用し、「臥床患者の導尿」を教員の指導のもとグループ別を実施する。
15コマ目	筆記試験

2021年度

成人看護学総論

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	加藤 あゆみ								

科目の目標

1. 成人各期の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、それぞれのライフサイクルがもたらす健康障害を理解できる。
2. 成人看護の役割を理解し、成人を看護するときのアプローチについて理解できる。
3. 成人期における保健活動を理解し、健康の維持・増進と疾病予防を図る活動について

関連教科

基礎看護学方法論1
精神看護学総論

時間外学習（予習・復習・課題）

社会生活をおくる成人期の身近な人、自分自身の生活をイメージしながら講義に臨んでください。
健康に関するニュースや記事、市町村が発行している健康だよりに興味・関心を持ち、看護の視点につなげられるようにしましょう。
上記の内容が授業に対しての予習、課題となります。

オフィスアワー

月～金曜日 9:00～17:30

※上記以外の時間に関しては相談してください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
筆記試験	
出席・提出物などの内容も含む評価	

テキスト

成人看護学 成人看護学概論
南江堂

参考文献

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1〕成人看護学
医学書院
中範囲理論入門
日総研出版
ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論
メディカ出版
生涯人間発達論
医学書院
国民衛生の動向
厚生労働統計協会

参考URL

特記事項

①実務経験のある教員による科目（本務先）

加藤あゆみ
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：心臓血管外科、内科（消化器・血液膠原病）、皮膚科、形成外科
教員経験：成人看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	1. 人間の一生の中での成人期を述べることができる。 2. 成人の発達課題を述べることができる。
2・3コマ目	1. 成人各期の身体的・精神的・社会的特徴を述べることができる。
4・5コマ目	1. 成人各期に起こりやすい健康障害を述べることができる。 2. セクシャリティ・性感染症に関する健康障害を述べることができる。
6コマ目	1. 成人期の生活（生活環境・余暇・家族・役割・価値・信念など）について理解することができる。
7コマ目	1. グループワークを通して、成人期の生活をアセスメントする視点を考えることができる。
8コマ目	1. 生活習慣に関連する健康障害について述べることができる。
9コマ目	1. 生活習慣病対策について述べることができる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
10コマ目	1. 成人期を対象とした保健対策の現状について述べることができる。 2. 成人期の健康状況の動向について述べることができる。
11コマ目	1. 職業に関する健康障害について述べることができる。 2. 職場における成人の健康生活への活動について述べることができる。
12コマ目	1. 成人期におけるストレスに関連する健康障害につて理解することができる。
13コマ目	各市町村が実施している健康に関する事業について調べ、発表を行う。
14コマ目	1. 多様な健康問題に対する看護の役割について述べることができる。 2. 成人学習者の特徴と成人への看護アプローチの方法を述べることができる。
15コマ目	筆記試験

2021年度

母性看護学総論

曜日・時限		配当学年	1学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	奥田 裕紀子								

科目の目標

1. 母性看護の対象を理解する
2. 対象を取り巻く社会の現状や課題と制度や法律を関連させ、母子保健を学ぶ
3. 健康の保持増進のための看護者の役割を学ぶ

関連教科

社会学、生命倫理、家族論、成人看護学総論、精神看護学総、基礎看護学方法論Ⅱなど

時間外学習（予習・復習・課題）

基礎体温を40日以上測定します。測定開始時期は、講義中にお知らせします。
女子学生は婦人体温計を準備してください。男子学生は普通の体温計を準備してください。
「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」の教科書は、14コマ目に使用します。それまでは、基礎看護学方法論Ⅱで学ぶ看護過程に合わせて参考書文献として活用してください。

オフィスアワー

特になし

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
グループワーク・課題の提出	

テキスト

系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1
医学書院

ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程
医歯薬出版 著）太田 操

参考文献

なぜから学ぶ生命倫理
医学芸術社

参考URL

特記事項

出席・授業態度は評価に反映するので注意してください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

奥田裕紀子

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：アドバンス助産師 産婦人科 小児科 乳腺外科 消化器外科

教員経験：基礎看護学 助産診断・技術学 助産管理

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	母性・父性 母性・父性の概念が述べられる 人間の発達課題とともに、親になること・家族を作るものの意味が考えられる 母性・父性の発達過程とその発達に影響を与える要因を述べられる
2コマ目	母性看護、リプロダクティヴヘルス 母性看護の目的について述べられる リプロダクティヴヘルス/ライツの概念が述べられる
3・4コマ目	母性の身体的特徴：性周期 性周期の仕組みが述べられる 卵巣・子宮の周期性変化が述べられる 性周期におけるホルモンの変化が述べられる 基礎体温の測定方法についてわかる
5コマ目	母性の心理的特徴 母性性の発達について理解できる 親子相互作用について内容がわかる
6コマ目	母性の社会的特徴 現在の家族の傾向から母性が受ける影響について述べられる 地域社会から母性が受ける影響が述べられる 労働から母性が受ける影響が述べられる
7・8コマ目	母子保健の現状 母子保健統計から日本の現状と動向がわかる
9・10コマ目	グループワーク グループワークを通して母性看護の対象者について理解を深める グループワークを通して母子保健サービスの現状が理解できる

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
11コマ目	グループワーク発表会 発表会を通して学びの共有ができる
12・13コマ目	母子保健対策 母子保健対策の現状について述べられる 母子保健活動のための法律がわかる 母子保健活動の内容が述べられる
14コマ目	母性看護に必要な看護技術 ヘルスプロモーションのための看護技術がわかる 女性のライフサイクル各期の保健指導がわかる 母性看護における看護過程の特徴がわかる

2022年度

母性看護学方法論Ⅱ-1

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	毛野 和代、奥田 裕紀子								

科目の目標

妊娠・分娩・産褥および新生児における生理的変化とそれぞれの時期における保健指導を含めた看護について理解できる

関連教科

母性看護学総論 母性看護学方法論Ⅰ-1 母性看護学方法論Ⅰ-2 母性看護学方法論Ⅱ-2

時間外学習（予習・復習・課題）

身近な妊産褥婦・新生児と関わり、観察してください

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
課題（提出状況と内容）	

テキスト

系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2
医学書院

参考文献

病気がみえる10 産科 第3版 MEDIC MEDIA

ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版

参考URL

特記事項

- ・各期の間で講義進度は前後することがあります。
- ・出席、講義態度は評価に反映しますので注意してください。
- ・終講試験後の沐浴実習になりますが、沐浴実習はガイダンスを含めて6コマありますので欠席に注意してください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

毛野 和代
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；母性看護、精神看護、脳神経内科看護
教員経験；母性看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

奥田裕紀子
近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験；アドバンス助産師、産婦人科、乳腺外科、消化器外科
教員経験；基礎看護学、助産診断・技術学、助産管理

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1～3コマ目	妊娠期 ・ 妊娠期の成立と胎児の発育過程が述べられる ・ 胎児付属物の機能と役割が述べられる ・ 妊婦の経過に伴う身体生理的变化、心理的・社会的変化が述べられる ・ 妊婦のニーズおよび看護問題とその原因を判断するために必要な情報がわかる ・ 母児が妊娠経過を健康に過ごすために、援助を必要としているニーズと看護問題がわかる ・ 妊娠経過に合わせた、妊婦の日常生活健康探究行動がわかる
4.5コマ目	妊娠期 ・ 母性意識の発達を促す援助についてわかる ・ 妊婦の一般的心理を理解して、その援助のあり方がわかる ・ マイナートラブル（不快症状）に対する援助がわかる ・ 妊娠経過で起こりやすい異常の予防と早期発見、および健康回復のための援助方法がわかる ※妊婦体験モデルを使用して妊婦体験（半日）レポート記載
6.7.8コマ目	分娩期 ・ 産婦の分娩経過における身体的・心理的・出産に伴う家族の影響が述べられる ・ 分娩の経過に影響を及ぼす因子がわかる ・ 産婦のニーズおよび看護問題と、その原因を判断するために必要な情報がわかる ・ 母児が分娩経過を健康に過ごすために、援助を必要としているニーズと看護問題がわかる ・ 母児が健康で分娩を経過するように、分娩経過に合わせた産婦の日常生活行動の援助がわかる ・ 産婦とその家族の精神的安定をはかる援助のあり方がわかる
9.10コマ目	分娩期 ・ 薬物を用いない産痛緩和法がわかる ・ 分娩経過で起こりやすい異常の予防と早期発見、および健康回復のための緩和方法がわかる
11～13コマ目	産褥期 ・ 褥婦の産褥経過における身体的変化・心理的特徴・出産に伴う家族の反応が述べられる ・ 産褥異常が母児に及ぼす主な健康問題がわかる ・ 褥婦のニーズおよび看護問題と、その原因を判断するために必要な情報がわかる ・ 褥婦が産褥経過を健康に過ごすために、褥婦の援助を必要としているニーズと看護問題がわかる
14.15コマ目	産褥期 ・ 感染、子宮復古不全、乳汁分泌不足などの異常を起こさず、健康で産褥期を経過するように、産褥経過に合わせた褥婦の日常生活行動について援助がわかる ・ ペアレネティングを促進する援助がわかる ・ 産褥経過で起こりやすい異常の予防と早期発見、および健康回復のための援助方法がわかる
16.17コマ目	新生児 ・ 新生児の胎外生活への適応過程がわかる ・ 新生児の身体的特徴がわかる ・ 新生児のニーズおよび看護問題と、その原因を判断するために必要な情報がわかる ・ 新生児とのコミュニケーションのとり方がわかる

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
18コマ目	新生児 ・新生児が胎外生活に適応し健康に過ごすために、援助を必要としている新生児のニーズと看護問題がわかる ・新生児の保育技術がわかる ・新生児に起こりやすい異常の予防と早期発見、および健康回復のための援助法がわかる ※看護過程の展開 提出
19. 20コマ目	沐浴ガイダンス ・沐浴実習の進め方がわかる
21～24コマ目	沐浴実習 ・新生児の保育技術が実践できる ・新生児とのコミュニケーションのとり方がわかる ・起こりやすい異常の予防と早期発見のための援助法がわかる

2022年度

母性看護学方法論Ⅱ-2

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数		授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	毛野 和代								

科目の目標

女性生殖器に関する健康障害時の看護を理解する

関連教科

母性看護学総論 母性看護学方法論Ⅰ-2

時間外学習（予習・復習・課題）

産婦人科に受診したことがある人の話を聞く機会があれば、聞いてください。

オフィスアワー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	

テキスト

系統看護学講座 専門Ⅱ 女性生殖器 成人看護学9
医学書院

参考文献

病気がみえる9 婦人科・乳腺外科 第3版
MEDIC MEDIA
看護師国家試験問題集

参考URL

特記事項

- ・出席、授業態度は評価に反映するので注意してください。
- ・母性看護学方法論Ⅱ-1と教科書が変わりますので、気を付けてください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）
近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）
臨床経験：母性看護、精神看護、脳神経内科看護
教員経験：母性看護学

②実務経験のある教員による科目（本務先）

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
1コマ目	・基本グループを5名で構成し、子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん・子宮筋腫・子宮内膜症の担当を決める。 - その後、専門家グループを4名で構成し、まずは個人で病態・発生部位・好発年齢・症状・検査・治療・看護を学習する。 ※それぞれ担当の病態・発生部位・好発年齢・症状・検査・治療・看護を次回の講義で話し合いできるように学習していく。
2.3コマ目	・担当の専門家グループで病態・発生部位・好発年齢・症状・検査・治療・看護を話し合い、資料作成を行う。 ・各専門家グループで設問を1題作成する。
4コマ目	・基本グループで専門家グループで学習した内容の発表を10分/人で行う。 ・各専門家グループで作成した問題を解く。

2022年度

在宅看護方法論Ⅱ

曜日・時限		配当学年	2学年	期区分		単位数	1単位	授業方法	講義
開講学科等	看護学科3年課程								
教員名	杉本 美恵、森 文美代								

科目の目標

対象の持つセルフケア能力を活かしながら、生活環境を考慮した在宅療養を支える生活援助技術を学ぶ。また、医療ケア・処置を必要とする在宅療養者・家族への看護および指導内容を理解する。

関連教科

解剖生理学、基礎看護学技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ、成人看護学方法論Ⅲ

時間外学習（予習・復習・課題）

1. 1コマ目に持参：経管栄養剤の種類・特徴
2. 2コマ目に持参（3コマ目に提出）：経管栄養法に関する看護手順 ※具体的内容については課題一覧表を確認
3. 3コマ目、11・12コマ目の演習は演習前に事例設定を配布するので、グループで方法と根拠・留意点を考えて実施する。
血圧測定など基礎看護技術は、ナースングスキルや教本を活用し予習を行っておく。演習の際に記載した用紙は、演習終了時に提出日時を指定します。
4. 13・14コマ目の経管栄養演習までに、経管栄養剤および内服薬注入の技術練習をグループで行なってください。

オフィスアワー

基本的に在室時は対応しますので必要時には意思表示してください。

成績評価方法・基準

評価項目	割合
終講試験	
提出物・受講態度・技術練習実施状況	

テキスト

系統看護学講座 統合分野 在宅看護論ナースンググラフ
医学書院 著）河原 加代子 編メディカ出版 著）壺 有林

参考文献

看護技術がみえる② 臨床看護技術
MEDIC MEDIA

参考URL

使用時に紹介します。

特記事項

各看護学における既習の知識・技術を想起し、関連づけながら在宅看護における個別的ニーズへの対応（応用）を学んでいってください。

①実務経験のある教員による科目（本務先）

森 文美代

近畿大学附属看護専門学校

①実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：内科看護（消化器・血液膠原病・腎臓）

教員経験：基礎看護学、成人看護学、在宅看護論

②実務経験のある教員による科目（本務先）

杉本 美恵

近畿大学附属看護専門学校

②実務経験のある教員による科目（専門領域）

臨床経験：外科看護（脳外科、眼科）、内科看護（循環器、内分泌代謝、腎臓）、外来看護、訪問看護

教員経験：在宅看護論

③実務経験のある教員による科目（本務先）

③実務経験のある教員による科目（専門領域）

④実務経験のある教員による科目（本務先）

④実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑤実務経験のある教員による科目（本務先）

⑤実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑥実務経験のある教員による科目（本務先）

⑥実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑦実務経験のある教員による科目（本務先）

⑦実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

⑧実務経験のある教員による科目（本務先）

⑧実務経験のある教員による科目（専門領域）

授業計画（回数任意科目）

授業回数	授業内容
1 コマ目	食・栄養 1. 在宅療養における食・栄養の視点・支援方法について理解できる。 2. 摂食・嚥下機能のアセスメントについて理解できる。 3. 食に関するリスク管理について理解できる。 4. 在宅療養における食・栄養の支援について理解できる。
2 コマ目	食・栄養 1. 経管栄養法の適応・目的・種類について理解できる。 2. 経鼻経管栄養法の安全に留意した実施方法について説明できる。 3. 胃瘻カテーテルの管理方法について理解できる。
3 コマ目	食・栄養（※技術練習） 1. 経管栄養法の合併症と対処方法について説明できる。 2. 使用器具の特徴を理解し、シミュレーションモデルを使用し、経鼻栄養チューブの挿入・固定・注入方法について確認できる。 3. 胃瘻チューブの管理について確認できる。
4 コマ目	1. 在宅中心静脈栄養法の目的と特徴、管理方法について理解できる。 2. 在宅での服薬管理の特徴と支援の方法が理解できる。
5 コマ目	排泄・清潔 1. 在宅における排泄支援の特徴について説明できる。 2. 排泄障害の分類・特徴に合わせたケア方法の工夫や選択が行える。 3. 在宅における尿路系カテーテルの種類・管理方法の留意点が理解できる。
6 コマ目	排泄・清潔 1. 在宅における清潔援助・感染予防・褥瘡予防について説明できる。 2. 在宅における援助時の家族との関係構築の必要性が理解できる。 3. 排泄の自立に向けたストーマ・腹膜透析の管理について説明できる。
7 コマ目	移動・リハビリテーション・休息① 1. 麻痺のある療養者の車椅子移乗・移動方法に関する基本技術が説明できる。 2. 麻痺のある療養者の環境整備・環境調整について理解できる。 3. 在宅療養における休息・睡眠の看護について理解できる。

授業計画（回数任意科目）

授業回等	授業内容
8コマ目	移乗・リハビリテーション・休息②：演習 1. 片麻痺のある療養者の血圧測定、移乗と歩行介助が実施できる。 2. 臥床状態での他動的関節可動域訓練方法を理解して実施できる。 3. リフレクションを通して、安全安楽な自立を促すための改善点を見出すことができる。
9コマ目	呼吸管理① 1. 在宅酸素療法の適応基準、使用機器の種類と特徴、管理方法について説明できる。 2. 在宅酸素療法における療養生活支援の方法について説明できる。 3. 療養者の状態に合わせた服薬管理方法と職種連携がわかる。
10コマ目	呼吸管理②・演習ガイダンス 1. 在宅人工呼吸療法の目的と適応について説明できる。 2. 在宅人工呼吸療法の管理と看護の要点について説明できる。 3. 演習ガイダンスを受けて、演習の目的と進め方がわかる。
11・12コマ目	演習：洗髪・爪切り、血圧測定 1. 療養者の状態に合わせた、爪切りが安全安楽を考慮して行える。 2. 設定事例の生活状況・状態を考慮した観察・洗髪が実施できる。 3. 実施したケアの記述と振り返りを行い、学びを深めることができる。
13・14コマ目	演習：経管栄養 1. 設定事例に対して経鼻栄養チューブからの栄養剤および内服薬注入の準備・実施ができる。 2. 実施内容を振り返り、今後の課題を整理し記述できる。
15コマ目	終講試験